

平成23年度一般会計当初予算説明資料

7款 商工費  
1項 商業費  
4目 貿易振興費

経済通商総室（内線：7659）  
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起 債	その他	一般財源	
(新)境港利活用優位性向上検証事業	1,000	0	1,000				1,000	
トータルコスト	3,396千円（前年度 0千円）[正職員：0.3人]							
主な業務内容	境港利活用優位性向上のための検証など							
工程表の政策目標（指標）	境港の物流拠点化：境港コンテナ取扱量増加 （貨物取扱量 目標 5,200千トン、コンテナ取扱量 目標 21,900TEU）							

説明

1 事業の概要

境港利活用優位性向上のため、課題などを検証し、ノウハウの蓄積や仕組みを構築することで、新規境港利用者への情報提供、境港利用促進活動に活用し、更なる境港取扱貨物量の増加を図る。

2 事業内容

県内外企業への境港利活用の再認識（事業費 1,000千円）

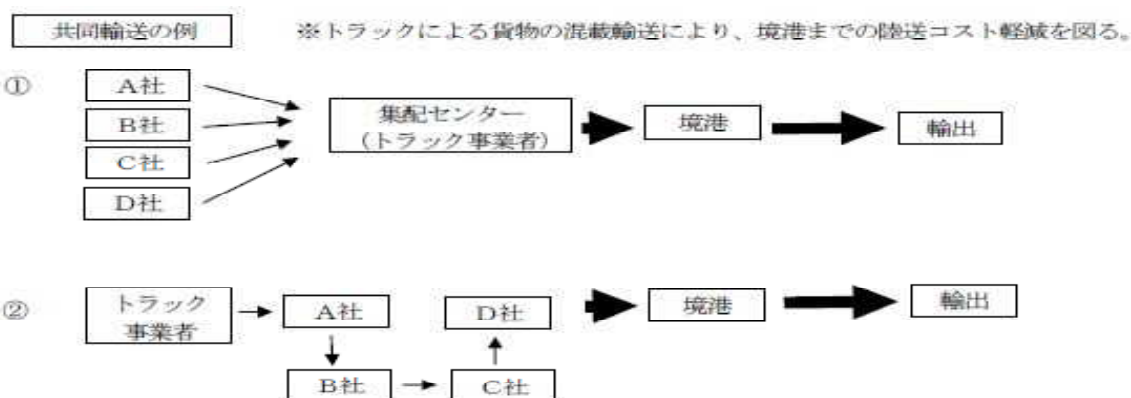
○平成20年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査のデータによると、県内生産・消費貨物の約7割が阪神港を利用。特に阪神港の利用が多い県東部地域企業で、境港利用の課題等について意見交換を行う検討会を設置し、課題等を整理することで、利便性向上の施策に反映させる。

<構成メンバー及び検討内容>

- ・東部地域企業5社程度、(財)鳥取県産業振興機構、境港管理組合、商工労働部
- ・境港利用のための課題、改善点（ソフト・ハード）、利活用に向けての提案、東部地域企業の共同モデル実験などの実施。

○東部地域企業をモデルケースとして、小口混載共同輸送などコスト削減、低炭素型国際物流に繋がるような共同モデル実験輸送の実施。

<実験輸送経費>1,000千円



3 これまでの取組状況、改善点

- ・国内企業訪問、海外ポートセールスや利用促進懇談会など、境港のPRを実施。また、利用促進助成、大量貨物誘致促進支援により、利用の動機付けを行った。
- ・更なる利用促進のため、境港の利便性向上の機能強化が必要。